

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(5 年計画の 4 年目)

1. 研究課題

秦代出土文字史料の研究

Study on the Excavated Manuscripts of the Qin Dynasty

2. 研究代表者氏名

宮宅 潔

MIYAKE Kiyoshi

3. 研究期間

2016 年 04 月 - 2021 年 03 月 (4 年度目)

4. 研究目的

中国湖南省龍山県里耶鎮で戦国時代から漢代にかけて使用された都城遺跡が発掘され、そこから秦の行政文書を中心とする簡牘史料(総計 38,000 余簡)が発見されたのは、2002 年のことであった。簡牘には始皇帝(秦王政)25 年(前 222)から二世皇帝 2 年(前 208 年)までの紀年が現れる。里耶鎮は湖南・湖北・重慶市が接する境界付近の、険しい山間部に位置するが、始皇帝による東方六国の征服(前 221)の後、この山深い離郷にも郡県制の網の目が及び、秦帝国の統治下に組み入れられたことを物語る。本研究班は、この貴重な史料を会読形式で精読し、中国古代帝国の統治制度やその実際のありように迫ることを、主な目的とする。これと併せて、岳麓書院所蔵簡の会読も進めている。こちらの史料は、2003 年に湖南大学岳麓書院が香港において購入した盗掘簡である。すでに 5 部の報告書が出版され、第 4・5 部の報告書には律令条文が収録されている。この法律史料を併せて精読し、如上の目的を達成する一助としたい。

In 2002, a city remain from the Zhanguo period to the Han was excavated at the town of Liye, Longshan, Hunan province, over 38,000 strips and boards were discovered here. These strips comprise administrative documents, dated from 222BCE to 208BCE. It follows that the area around Liye, a small mountain village located near the boundary among Hunan, Hubei, and Chongqing, was incorporated into the Qin administrative system after the unification by the First Emperor. In this project, we will read this manuscript closely, investigate the political system of the early Chinese emperor and its reality. In addition to the Liye discoveries, the

Qin strips of unknown place were smuggled to Hong Kong and repatriated by the Yuelu Academy of Hunan University in 2003. Several parts of this material have been already published, which comprise the calendars and the records of judicial process during the Qin. The photos and transcriptions of the Qin statutes and ordinances among these strips will also appear soon. Utilizing this material, we intend to achieve our above-mentioned goal.

5. 本年度の研究実施状況

里耶秦簡・岳麓簡の概要を紹介し、その内容や研究状況について意見を交換したうえで、項目7に示したように会読を進めた。会読により作成された訳注(岳麓書院所蔵簡《秦律令(壹)》訳注稿 その3(暫定版))は、研究班のHP(<http://www.shindai.zinbun.kyoto-u.ac.jp/index.html>)に公開した。

6. 研究成果の概要

なし

7. 本年度の研究実施内容

2019-04-12	岳麓簡会読 184-193	発表者	佐藤 達郎	関西学院大学
2019-04-26	岳麓簡会読 184-193	発表者	佐藤 達郎	関西学院大学
2019-05-10	岳麓簡会読 184-193	発表者	齋藤 賢	文学研究科
2019-05-24	岳麓簡会読 184-193	発表者	齋藤 賢	文学研究科
2019-05-31	岳麓簡会読 184-193	発表者	齋藤 賢	文学研究科
2019-06-14	岳麓簡会読 194-197	発表者	鷹取 祐司	立命館大学
2019-06-21	岳麓簡会読 194-197	発表者	鷹取 祐司	立命館大学
2019-06-28	岳麓簡会読 198-206	発表者	角谷 常子	奈良大学
2019-07-05	岳麓簡会読 198-206	発表者	角谷 常子	奈良大学
2019-07-19	岳麓簡会読 198-206	発表者	角谷 常子	奈良大学
2019-08-02	岳麓簡会読 198-206	発表者	角谷 常子	奈良大学
2019-09-06	里耶秦簡会読 8-960~8-996	発表者	藤井 律之	
2019-09-20	岳麓簡会読 225-236	発表者	宮宅 潔	
2019-09-27	里耶秦簡会読 8-960~8-996	発表者	藤井 律之	
2019-10-11	岳麓簡会読 225-236	発表者	宮宅 潔	
2019-10-25	里耶秦簡会読 8-960~8-996	発表者	藤井 律之	
2019-11-15	岳麓簡会読 225-236	発表者	宮宅 潔	
2019-11-22	里耶秦簡会読 8-898~8-924	発表者	角谷 常子	奈良大学
2019-11-29	岳麓簡会読 225-236	発表者	宮宅 潔	

2019-12-06 里耶秦簡会読 8-898～8-924 発表者 角谷 常子 奈良大学
 2019-12-13 岳麓簡会読 237-247 発表者 藤井 律之
 2019-12-20 里耶秦簡会読 8-898～8-924 発表者 角谷 常子 奈良大学
 2020-01-10 岳麓簡会読 237-247 発表者 藤井律之
 2020-01-24 里耶秦簡会読 8-925～8-959 発表者 宮宅 潔
 2020-01-31 岳麓簡会読 237-247 発表者 藤井律之
 2020-02-07 里耶秦簡会読 8-925～8-959 発表者 宮宅 潔
 2020-02-14 岳麓簡会読 237-247 発表者 藤井律之
 2020-02-28 里耶秦簡会読 8-925～8-959 発表者 宮宅 潔
 2020-03-06 岳麓簡会読 237-247 発表者 藤井律之

8. 共同研究会に関連した公表実績

なし

9. 研究班員

所内

藤井律之、古勝隆一、宮宅 潔、目黒杏子、陳 捷、李 磊、魏 永康、陳 鳴、曹 天江
 学内

宗 周太郎(文学研究科・博士課程)、斎藤 賢(文学研究科・博士課程)、章 瀟逸(人間・環境学
 研究科・博士課程)

学外

郭 聡敏(立命館大学)、佐藤 達郎(関西学院大学)、角谷 常子(奈良大学)、鷹取 祐司
 (立命館大学)、土口史記(岡山大学)、安永 知晃(関西学院大学)、畑野 吉則(奈良文化財
 研究所)

10. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数	参加人数				延べ人数			
		総計	外国人	大学院生	若手研究者	総計	外国人	大学院生	若手研究者
所内	1	9 (1)	5 (1)	1 (1)	3 (1)	210 (20)	100 (10)	10 (10)	60 (10)
学内	2	3 (0)	1 (0)	3 (0)	3 (0)	30 (0)	20 (0)	30 (0)	30 (0)
国立大学	1	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	15 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)

公立大学	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
私立大学	3	5 (2)	1 (1)	1 (1)	2 (1)	100 (40)	20 (20)	20 (20)	40 (20)
大学共同利用機関法人	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
独立行政法人等公的研究機関	1	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)
民間機関	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
外国機関	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
その他	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
計	8	19 (3)	7 (2)	5 (2)	9 (2)	356 (60)	140 (30)	60 (30)	131 (30)

※()内には、女性数を記載

11. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

参加研究者がファーストオーサーであるものを対象

総論文数	3(0)
国際学術誌に掲載された論文数	0(0)

※()内には、拠点外の研究者による成果(内数)を記載

インパクトファクターを用いることが適当ではない分野等の場合

理由			
掲載雑誌	掲 載 論 文 数	主なもの	
		論文名	発表者名

東方学報京都第 94 冊	1	秦代徭役・兵役制度の再検討	宮宅 潔
-----------------	---	---------------	------

※拠点外の研究者については、発表者名にアンダーラインを付す

12. 費目の 30%を超える大幅な変更があった場合の変更理由
なし

13. 次年度の研究実施計画

本年度と同様に岳麓書院蔵簡秦律令(壹)と、里耶秦簡の会読、および訳注の作成を進める。

14. 研究成果公表計画および今後の展開等

岳麓書院所蔵簡《秦律令(壹)》訳注稿 その3(確定版)を『東方学報』誌上に発表する。同時に、関連する成果を研究班の HP (<http://www.shindai.zinbun.kyoto-u.ac.jp/index.html>) や、学術誌に投稿する。

